

愛知支部新体制に向けてのご挨拶

旧支部長 岩倉病院 片岡 寿雄

2000年にJF研究会が発足し、全国で支部化が行われました。当時、宇都宮理事長からの教示を受けた者が集い、自ら学習する集団へと膨張していきましたが、これらのメンバーが中心となり愛知支部が結成されました。坂口勇人先生を支部長として運営してきたわけですが、2004年に坂口先生が地方理事として活躍する事となり、この時より不肖私が愛知支部 支部長としての重責を担ってまいりました。後進を育てることを主目的とし、単に技術の修得に関わらず、理学療法・作業療法の未来を考え、真に治療者と成るべく後進達とともに歩んでまいりました。

このたび地方理事としてのさらなる重責を賜り、私共が支部内の指導者としてふさわしいと考える川地 剛先生にバトンを譲り、支部を託すことと致しました。在任中は、皆様の力をお借りしつつ微力ながらも業務に携わってきたつもりでしたが、至らぬ点多かったと反省し切りでございます。新しい支部長の下、皆様に良き研修・研鑽の機会を提供できるよう私共も支部長に協力し、共に努力をしていく所存です。

これからも皆様のますますのご発展を願っています。

新支部長 サニーサイドホスピタル 川地 剛

この度、愛知支部長を拝命しました、川地剛です。バトンを受けた者として重責ではありますが、育成という基本理念を引き継いで参ります。

支部発足から20年が経過し、当初は20～30才代の会員も、現在ではそれぞれの職場にて部下、後輩をもち責任を担う立場になったことと思います。組織を束ねる一方で、専門職としての本分は何かを見失うこともあったのではないのでしょうか。

専門職とは、専門性を必要とする職のことであり、理学療法あるいは作業療法という名称を使用する技術職として、社会に認知され信頼を得るため、自己研鑽に励んできた経緯があります。その中で本当の事が知りたい、もっと技術が上手になりたいという思いは年代を重ねた今も変わることはありません。

今後も皆さんの声を拾いながら学びの場を充実させるとともに、学術団体としての取り組みをどのようにアピール出来るのかを考え尽力いたします。

何卒よろしく願いいたします。